

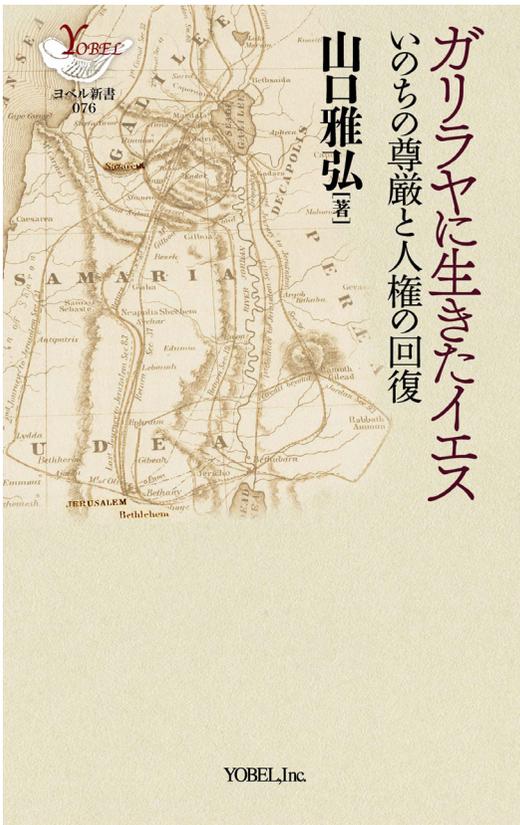


山口雅弘 [著] (日本キリスト教団 引退牧師)

3刷出来!

ガリラヤに生きたイエス いのちの尊厳と人権の回復

重版案内 8月10日刊行予定



“ガリラヤ”を抜きにしては イエスもキリスト教もない!



イエスが生まれ育ち、民と共に暮らし、「神の国運動」の場となった「ガリラヤ」、その地に焦点を当てて聖書を捉え直す渾身の「キリスト教解体新書」。〈歴史のイエス〉と〈信仰のキリスト〉との間にある乖離を明示してキリスト教最大の問題を乗り越え、イエスの生き方の核心を示す「いのちの尊厳と人権の回復」に肉薄する。

イエスの眼差しは、社会的・政治的・宗教的な権力支配の構造悪によって^{きみんか}難民化され、難民化される人々に向けられました。そしてガリラヤの人々の願いや抵抗の生き方は、神を信頼し自立的に生きる者の「弱者の武器」を用いる「非暴力」によるものでした。人々はイエスの福音を受け継ぎ、何事も「あきらめず」に希望を持って生きるように促されたのではないのでしょうか。(本文より)

| | | |
|--------------------|---|--|
| まえがき | ラエルの伝統／「異邦人のガリラヤ」と言われる理由 | に罪を犯さず |
| 序章 イエスの生き方の核心は? | ／ガリラヤの社会と支配構造 | 第五章 晒し柱——犠牲のシステム |
| 第一章 「イエス」探求の前提 | イエスの生と死／心身の「癒し」と「全人間的な解放」／志ん生の本音とパウロの呻き、そしてイエス、他 | 晒し柱の処刑について／十字架の「贖罪」／強者の論理と犠牲のシステム／晒し柱による死についての再考 |
| 第二章 「ガリラヤ」という歴史的な場 | イエスと「ガリラヤ」／ガリラヤの特異性／北イス | 第六章 宗教のジレンマとその克服 |
| 第三章 ガリラヤ農民イエス | 農民・木工職人イエス／日常の風景／中庭を中心にした共同体／「女」と「男」の間には／農民の苦しみと弱者の武器、他 | イエスの「誕生と死」、そして「復活物語」／「復活信仰」と女性たち／宗教のジレンマとその克服、他 |
| 第四章 旅に出るイエス——怒りと希望 | 放浪の旅立ち?／イエスの怒り／ヒューマンイズムの徹底化／イエスが示す「神の国」／共食と共生の実現を求めて／パンの分かち合い／一切れのパンのため | 終章 弱さを絆に |
| | | 主な参考文献表／あとがき |

著者略歴：山口雅弘（やまぐち・まさひろ） 1948年札幌に生まれる。日本聖書神学校卒業。以後、日本キリスト教団諸教会の牧師を歴任。アメリカ・ケンブリッジ Episcopal Divinity School に留学（神学修士号取得）。単位互換制度によりハーバード大学神学校で学び、米国長老派研修施設（ニューヨーク）常駐神学教師、並びに諸教会の協力牧師。日本聖書神学校講師（新約学）。現在、日本キリスト教団引退牧師。著書：『イエス誕生の夜明け：ガリラヤの歴史と人々』、『よくわかる新約聖書の世界と歴史』（以上日本キリスト教団出版局）、『イエスの道につながって：教会暦による随想とメッセージ』（新教出版社）。編・著書：『聖餐の豊かさを求めて』（新教出版社）。翻訳書：M. ヘンゲル著『イエスは革命家であったか』（共訳、新教出版社）、L. ウィリアムソン著『現代聖書注解—マルコによる福音書』、P. パーキンス著『現代聖書注解—ペトロの手紙1・2、ヤコブの手紙、ユダの手紙』（以上日本キリスト教団出版局）、M. ディベリウス著、H. コンツェルマン改訂増補『教会書簡注解—第1・第2テモテ書、テトス書』（教文館）。

新書判・336頁・1,650円（税込）
1,500円＋税 ISBN978-4-909871-63-3 C0216